

長野県産米の品質確保のため、 「高温登熟障害」への対策を徹底しましょう！

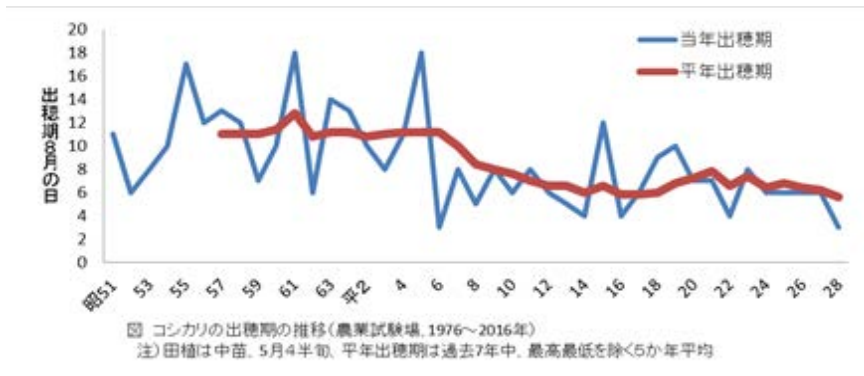
長野米生産販売対策協議会
長野県農政部農業技術課

本年は、田植え以降、6月中旬まで低温傾向で経過したことから、生育は平年よりやや遅れていますが、今後の3カ月予報では、気温が平年より高く推移すると予想されており、出穂期の前進や登熟期間中の高温による品質低下（高温登熟障害）が心配されます。

高温条件下で登熟が進むと、胴割米や白未熟米の発生につながり、検査等級が下がる原因となるほか、食味や精米歩留まりも悪化します。出穂後に高温となった平成24年産は、1等米比率が平年比マイナス約3ポイントの93.6%と、前年までの全国1位から3位になるなど大きな影響が生じました。

近年、出穂期の前進と登熟期間中の高温傾向が強まっています。

高温登熟障害を回避するため、下記の対策を徹底し、品質の高い長野県産米の生産に取り組みましょう。



【7月に実施する高温登熟障害対策】

適正茎数（2枚以上の葉がある茎（分けつ）が〇〇本/株）になったら、すぐに中干しを実施！！

○ 適正茎数を確保しましょう！

品種別に目標茎数を確保したら、**直ちに中干しを実施**し、籾数過多を防ぎましょう。なお、大きなヒビ割れが入るほどの中干しは、根を傷めるので、田面に軽くヒビ割れが入る程度とすることがポイントです。

○ 適切な追肥を実施しましょう！

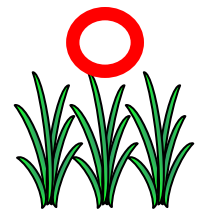
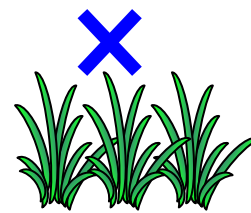
穂揃期に葉色が黄化しすぎると、**胴割米多発の原因**となります。地域の栽培指針に基づき、**適期・適量の追肥を実施**しましょう。

過剰な追肥や、出穂前10日以降の追肥は、食味の低下につながりますので行わないください。

○ 適切な水管理を行いましょう！

幼穂形成後、低温が予想される場合は深水とするなど、生育、気象状況に応じて適切な水管理を行いましょう。

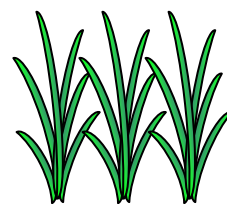
○ 中干しは 目標茎数が確保できたら速やかに実施



茎数過剰
(条間が見えない状態)

適正茎数

○ 幼穂形成期における コシヒカリの標準的栄養状態



葉色：
葉色板 約3.0
葉緑素計 30~35
茎数：
500本/m²程度
(23~33本/株程度)

- ・幼穂形成期から葉色が薄いと胴割粒の多発の危険大！
- ・適正追肥で穂揃期以降も葉色が落ちないように！

【適正な籾数確保と健全な稲体（適正な葉色）維持】を心がけましょう！

【参考】登熟障害の発生要因と特徴及び対策について

○高温登熟による胴割米

発生要因：出穂後、10日間の平均日最高気温が30℃以上で、日射過多の日が続いた場合に発生します。

特 徴：玄米の「縦方向」と「横方向」の充実に差が生じることにより、もろく割れやすいお米になります。

対 策：栽培指針に基づき、適期・適量追肥を行い、稲体の活力を成熟期後半まで維持しましょう。



胴割粒

○高温登熟による白未熟粒

発生要因：出穂後、20日間の平均気温が26℃以上で、曇天（日照不足）が続き、籾数が多いと発生します。また、同様の気象条件下で倒伏した場合も、玄米へのデンプン集積が阻害されて発生します。

特 徴：玄米にデンプンがしっかり集積されていないため、白く濁った部位が見られます。（腹白・背白粒）

対 策：中干しで茎数(穂数)を抑制、籾数を制限して、玄米へのデンプン集積がスムーズに行われるようにしましょう。



白未熟粒

正常粒

※県内の平均的な目標籾数

コシヒカリ	35,000粒/㎡
風さやか	37,000粒/㎡

※次年産に向けた対策

出穂が早いと高温に遭遇する可能性が高まるので、適正な出穂期となるよう、田植日、品種を検討しましょう。

※ 高温傾向は「ある」という前提で対策をとる心構えが重要です。

※ 出穂期の予測情報などにも注意を払いましょう。

※ 詳しくは、最寄りのJA、農業改良普及センターにお問い合わせください。

連絡先

松本農業改良普及センター

電話番号 0263(40)1945